

2021年「日本ITU協会賞」受賞

2021年11月30日に開催された「第53回世界情報社会・電気通信日のつどい」において、ネットワーク部の田村 基が日本ITU協会賞「功績賞」を、ネットワーク開発部の青柳 健一郎、6G-IOWN推進部の栗田 大輔、電波企画室の坂本 信樹、無線アクセス開発部の手島 邦彦が日本ITU協会賞「奨励賞」を受賞しました。

日本ITU協会賞は、電気通信／ICTと放送分野に関する国際標準化や国際協力の諸活動において、これまでに優れた功績を遂げられた者ならびに今後の貢献が期待される者に贈呈されるものです。中でも、功績賞は、世界情報社会サミットにおける基本宣言および行動計画の実現および国際標準化、国際協力に関するITU (International Telecommunication Union) などの活動または我が国におけるITUなどに関連する諸活動に貢献し、その他情報通信および放送の発展に寄与し、その功績が著しい者に贈られます。また、奨励賞は、功績賞に該当する諸活動にすでに参加し、今後これらの領域において継続して寄与することが期待される者に贈られます。

田村は、第2世代から第5世代にわたる移動通信網のネットワークアーキテクチャ標準化に一貫して携わり、ITU、3GPP (3rd Generation Partnership Project) その他の関連標準化機関において、各世代における移動通信網技術の国際標準仕様策定に貢献し、移動通信ネットワークの実用化を推進しました。また途上国における技術支援に尽力し、移動通信の新技术導入に寄与した功績が認められ、功績賞を受賞しました。

青柳は、移動通信の標準技術仕様検討団体である3GPPにて、無線アクセス、およびコアネットワー

ク、双方の分野で技術仕様策定に貢献しました。無線アクセス分野では、携帯へ緊急地震速報を実現する技術仕様の策定を主導しており、コアネットワーク分野においては、サービス初期段階では限定的な5G利用エリアを4Gで補完する技術仕様の策定に貢献するなど、今後移動通信に関する標準化活動において、ますますの活躍が期待され、奨励賞受賞となりました。

栗田は、3GPP標準化において、UMTS (Universal Mobile Telecommunications System) のアンテナ要求性能規定や、LTE/LTE-AdvancedのMIMO (Multiple Input Multiple Output) アンテナ評価技術の策定、5G NR (New Radio) のバックホールリンク適用技術、アンライセンス周波数利用技術、通信エリア拡張技術、機能制約UE (User Equipment) の技術検討・仕様策定などにおいて技術議論を主導しました。技術仕様策定にも貢献してきており、今後ますますの活躍が期待され、奨励賞受賞となりました。

坂本は、IMT (International Mobile Telecommunications) 用周波数に関する国際標準化活動に従事しており、ITU-R (International Telecommunication Union-Radio communication sector) WP5D (Working Party 5D) 会合における関係各国との調整、ARIB (Association of Radio Industries and Businesses) 内における対処方針の取り纏め、CJK IMT-WG (Working Group) における中国、韓国との連携強化などを通じて議論を促進しました。WRC (World Radiocommunication Conference) -19におけるIMT用周波数の追加特定や、その他周波数共用検討に関する研究に貢献するなどしており、今後のさらなる活動を期待され、奨励賞受賞となりました。

手島は、移動通信分野の中心的な役割を果たしている標準化団体である3GPPにおいて、複数の無線技術案件で取り纏め役を務めるなど、4Gおよび5Gの標準仕様の策定に大きく貢献し、また、無線基地局のオープン化を目的とした団体であるORAN (Open Radio Access Network) アライアンスにおいて、ワーキンググループの共同議長を務め、活動を牽引するさらなる活躍が期待され、奨励賞受賞となりました。



(左から) 坂本, 田村, 手島, 栗田

本誌に掲載されている社名、製品およびソフトウェア、サービスなどの名称は、各社の商標または登録商標。

※所属は推薦時のもの。